

2017年度電気材料安全・規格委員会活動報告

事務局便り

1. 概要

電気材料安全・規格委員会は、電気製品に使用されるプラスチックの安全性や規格の要請に対し、当業界の意向も加味しながら適切に応える活動を行っている。主な内容は、電気安全に係る部品材料登録・規格・国内外法規制・関連機関団体の会議に出席し、情報収集や検討を行う事。特に、規格の国際会議、国内委員会に、委員や専門家である特別委員を派遣し、プラスチック材料の設計・評価・用途等について意見を提出する事、である。これらに関して、JEITA、JET、JQA等の関連団体とも情報交換し相互理解を深めた。

2. トピックス

2.1 CMJ関係

耐トラッキングのJIS C 2134改正動向

対応する国際規格IEC60112のCDV文書が発行され、影響や妥当性の確認をした。CDV文書に関するTC112国内委員会へ発信されるコメント案をCMJ内で確認した。プラ工連内で大きな影響ないことを確認した。

2.2 JEITA関係

電気製品の安全や電気用途向け材料に関する規格等のうち、ULの規格改定審議状況、IEC規格改訂状況、RoHS指令におけるフタル酸の規制状況等を取り上げ、情報や意見の交換を実施した。

2.3 IEC関係

1) TC89

10月にウラジオストック国際会議で、最終製品のグローワイヤ着火試験、ホットコイル製品試験、ホットワイヤ試験、着火性・燃焼性関連の審議に出席。グローワイヤ試験に関する一連の規格IEC60695-2-12(GWFI)、13(GWIT)に関して、改正することで合意された。改正に当たり、共通事項に関しては、IEC60695-2-10に取り纏めることとし、あわせてIEC60695-2-10(グローワイヤ試験装置及び一般試験方法)、IEC60695-2-11(最終製品のグローワイヤ試験方法)の改正作業を進めていくこととなった。耐火性JIS原案作成委員会で、IEC 60695-1-30及びIEC 60695-11-5のJIS化に取組み、JIS C 60695-1-30、JIS C 60695-11-5原案を作成中である。国内委員会を長年牽引されていた吉田委員長(日本舶用品検定協会)から、H30年度より深谷委員(電線総合技術センター)が委員長を引き継ぐこととなった。

2) TC108

国際規格IEC62368シリーズについて、プラスチック関連内容の確認を継続した。

3) TC111

(PT63031/ローハロゲンWG関係)

案件の重要性を鑑み、春原委員をエキスパートとして派遣。所属各団体でハロゲン含有量を実態調査し集約した意見を国際会議(*)で説明。

4) TC112

①IEC国内委員会に出席し、IEC62631-3-2(表面抵抗及び表面抵抗率)に関する問題は正へ向けた取組みを審議し、TC112国際会議で改訂提案を行い、WGの合意を取り付けた。

②IEC 60112 Ed. 5(耐トラッキング性)のCDV投票(2018年1月15日締切り)があり、TC112国内委員で取り纏めのコメント案をプラ工連で審議し、妥当であること確認した。

5) UL

①STP:2017年6月14-15日(2日間)UL Northbrookオフィス(シカゴ)にて開催された。プラ工連からは井上委員と春原委員が参加し、材料に係る規格開発案件の審議に材料メーカーの立場から意見を出し

た。長期耐熱試験方法など世界的に関心高い案件も多く、適正な規格作りに貢献した。

② UL RoundTable：UL の規格開発が進むがその動向のタイムリーな把握は難しく、FUS（フォローアップサービス）業務上で諸問題を抱える会員も多い。そのため、直接のコミュニケーション機会創出のため、2017年11月 UL とプラ工連の RoundTable を開催した。STP 会議、新しい分析評価、FUS での諸問題などが議論された。このような機会は双方有効性高いと考え、UL-Japan とプラ工連間での定期会議（2018年1月に第一回開催）の推進を合意し、情報伝達や課題改善への取組みを進めていくこととなった。